

事例 E : 読み書きの困難がある中学年の児童

♥計画

指導仮説	授業における個に応じた手だて
A : 視知覚の弱さによる読み書きの困難があり、学習意欲が低下しがちであるため、文字を読みやすくする提示の仕方を工夫することで達成感を味わわせる必要がある。	A : 文字を視写するとき、量が多いとそれだけで意欲をなくしてしまうため、意欲を維持できるように、1文ずつカードにして渡し、1枚写せたら次のカードを写すようにする。 A : 漢字の習熟が不十分なので、事前に読み仮名をつける。 A : 文字を追うのも難しいので、指でたどるようにする。

◆実施（指導案）

- ・単元 カンジー博士の音訓遊び歌 / 送りがな
- ・本時の目標
 - ・送りがなに注意して、漢字を読んだり書いたりすることができる。
 - (言語についての知識・理解・技能)
- ・本時の展開

過程	指導内容	指導形態	主な学習活動	指導上の留意点 (個に応じた手だて)	教材・教具等	評価 評価方法
導入	本時の課題の確認	一斉	1. 本時の学習課題を確認する。			
展開	全文音読をさせる。	一斉	2. 全文を音読する。	読めない漢字に読み仮名を事前につけさせておく。 ・リズムに乗りながら何度も音読させる。 音読に合わせて文を追いくいため、指で文をたどるようにさせる。	ワークシート	送り仮名に注意して正しく漢字を読んだり、書いたりしている。(言語についての知識・理解・技能) ワークシート
	文例を音読し、意味の違いを確かめさせる。	一斉 個別	3. 「集まる」「集める」の文例を音読し、意味の違いを確かめる。	・挿絵を利用して、送り仮名によって意味が変わることを理解させる。 ・ワークシートに書き、読み書きの練習をさせる。 絵を見て言葉の意味を確認させる。		
	文例を音読し、視写させる。	一斉 個別	4. 「書く」の文例を音読し、視写する。	・同じ動作を表す言葉でも、使い方によって送り仮名が変わることがあることに気付かせる。 どこを書くのかが明確になるようヒントカードを渡す。		
まとめ	まとめ	一斉	5. まとめをする。	・送り仮名の大切さと注意する点を確かめる。		(ワークシート発表)
		一斉	6. 次時予告を聞く。	カルタ作りをすることを知らせる。		

◆評価

- A : 長い文章でも、提示の仕方を工夫することで全文を視写することができた。
- A : 事前に読み仮名をつけておくことで、自信を持って音読できた。
- A : 友だちが読んでいるときも、指を使う方略をとることで、集中して音読を聞くことができた。